

(第3種郵便物認可)

全国ロボコン 上位目指す

松本秀峰 井上君、長岡君のチーム



ロボットを持つ長岡君(左)と、県大会優勝トロフィーを持つ井上君

松本市の松本秀峰中等教育学校3年の井上達太郎君(14)、長岡凜君(14)の2人のチームが、9日に金沢市で開かれるロボットのミドル競技中学生部門で優勝し、全国の切符を手にした。2人は「WRO」の全国大会でも上位を狙いたいと意気込んでいる。

県大会は8月下旬に諏訪東京理科大学(茅野市)で開かれ、同部門には11チームが出場した。各チームが作った、プログラムで自動制御したロボットがゴール地点まで到着する速さと技の正確さを競った。コース上にはブロックでできたオブジェクト(物体)を運ぶ作業があり、ロボットの作業の正確さがポイントとして加算されていき、ポイント数などで順位を決めた。

井上君と長岡君のチームはポイントで満点を記録した。満点もチームあったが、

ゴール地点に到着するタイムで勝り、優勝を手にすることができた。物体を持ち上げるアーム部分を改良したことや、物体との距離を計測するセンサーを取り付けたことなどが、好結果につながったという。

松本秀峰中等教育学校のチームが全国大会に出場するのは2年連続2回目、井上君と長岡君のチームは全国大会初出場となる。

井上君は「全国大会はもっと難しい課題が出ると思うけれど、満点を取れるプログラムをつくりたい」と話し、長岡君は「昨年の(秀峰の)チームは全国大会で3位だったので、それを超える順位を目指したい」と意気込んでいる。

(田子元気)